

## 専門試験-上級-衛生監視員

〔No. 1〕 因果関係に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 仮定された発症要因と、ある疾病に因果関係があると断定するための十分条件は、仮定された発症要因とその疾病の間に観察研究によって関連が認められることである。
2. 因果関係があると判断するためには、要因曝露が罹患より時間的に前であることが必要条件である。これは関連の整合性と呼ばれる。
3. 食塩摂取量が多いほど胃がんの罹患率が高いことが分かれば、食塩摂取と胃がんの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の普遍性と呼ばれる。
4. ウイルスXに感染しなければ疾病Aに罹患せず、ウイルスXに感染すれば免疫がない者は全員疾病Aを発症することが分かれば、ウイルスXと疾病Aとの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の特異性と呼ばれる。
5. 交絡因子は、発症要因には強く影響するが疾病には全く影響を与えない因子であり、交絡因子があると発症要因と疾病との間に因果関係があるように見える。

[No. 2] 次のうち、系統的レビュー（システマティックレビュー）の説明として正しいのはどれか。

1. 教科書や書籍に記載されている内容を、テーマに沿って系統的に整理し、要約する。
2. あるテーマに関する論文を系統的・網羅的に複数のデータベースから収集し、批判的評価を加えて要約する。
3. 専門家にインタビューした内容を、系統的に整理してまとめる。
4. 調査対象とする疾病に罹患している群とその疾病に罹患していない群について過去の曝露要因を調査し、曝露要因と疾病との関係をまとめる。
5. 調べた疾病に罹患していない健康な集団を対象とし、研究を開始する時点で食生活を調査し、その集団を追跡調査して食生活上の要因と疾病発生率や死亡率の違いについて調べる。